

IP_STUDIO の測定器のデータ表示設定

簡単説明書



Ver.1.1

アイティニュース

はじめに

本書は測定器（騒音計、振動計）の情報をサイネージで表示する方法を簡単に説明します。

Index

はじめに.....	2
1.概要.....	2
2.IP_STUDIO スケジューラー設定.....	4
3.サイネージ（STB）のIP_STUDIO プレーヤ設定.....	5
4.USB ドライバソフトウェアのインストール.....	5
5.サイネージにデータ取り込みソフトウェアをインストール.....	7
6.サイネージのフォルダー.....	8



サイネージは測定器の情報をリアルタイムで表示できます。近隣の住民、通行人に工事現場の情報をすみやかに、正確に伝えることができます。表示用の画面設計と表示スケジュールは IP_STUDIO ホスト（スケジューラー）で設定します。

設定の作業手順

サイネージで計測器の情報を表示するには、各機器の設定、ソフトウェアインストールが必要になります。以下の手順で設定をします。

1. 測定機器の設定

各測定機器については測定器メーカー等の説明書、マニュアルなどをご参照ください。サイネージとの接続は USB ケーブル（A-miniB）を使用します。サイネージには USB 接続端子が1つのため拡張 USB ハブをご用意ください。マウス、キーボードの接続も必要になります。

2. IP_STUDIO スケジューラー設定

IP_STUDIO の画面設定（デザイン）、ファイル設定をします。プログラムの変更はありません。

3. サイネージ（STB）の IP_STUDIO プレーヤ設定

IP_STUDIO プレーヤーの設定

1.IP_STUDIO プレーヤーに測定器データ表示対応プログラムをインストールします。（IP_CTL.exe、IP_PLAY.EXE、最新版は不要）

2.INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

4.測定器メーカーの USB ドライバーソフトウェアのインストール。

5.サイネージ（STB）にデータ取り込みソフトウェアをインストール

IPstage をインストールします。

タスクトレイのアイコンから初期設定をします。

6.サイネージ（STB）、ソフトウェア、DATA フォルダの設定

設定の詳細説明は以下のページをご参照下さい。

2.IP_STUDIO スケジューラー設定

IP_STUDIO スケジューラーのデータフォルダー [IP_DATA 4_HOST] に次の TXT ファイルを作成してあります。

(操作はドラッグアンドドロップです。測定データが入ってないのでヌル (空白) です)

SINDOU.TXT , SOUON.TXT ,

スケジューラーで表示用のデザインをします。

例 : JPEG、png などで背景の静止画を作成します。(サンプル画像 1 点付属)



騒音計は SOUON.TXT、振動計は SINDOU.TXT を空白のところに IP_STUDIO の [T] (テキスト挿入) で設定します。(文字サイズは 100 以上が見やすいです。文字色を赤、背景は白などと設定してください。)



3. サイネージ (STB) の IP_STUDIO プレーヤ設定

IP_STUDIO プレーヤーの設定

1 .INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

INI ファイルは T X T です。

```
#####  
#       ファイル リダイレクト設定  
#  
#       書式 : IP_STUDIO 設定ファイル名, プレーヤー参照ファイル名, 表示間隔(秒数)  
#  
#       ※IP_STUDIO 設定ファイル名は、ファイル名のみでパス名は含めないでください  
#       プレーヤー参照ファイル名は、フルパスで指定してください  
#  
#####  
SINDOU.TXT, C:¥DATA¥振動レベル.dat, 1  
SOUON.TXT , C:¥DATA¥騒音レベル.dat, 2
```

フォルダーは 1 同様 [IP_STUDIO4_TERM] です。

注意 : IP_STUDIO4 の場合は IP_STUDIO3_TERM

3.計測器からのデータ取り込みフォルダーの作成

DATA フォルダーを C ドライブのルートに作成します。

4.USB ドライバーソフトウェアのインストール

リオン製の測定器を USB で取り込むには、リオン社の WEB から専用ドライバーをインストールします。

インストールが正常に行われた後、デバイスマネージャーでポート COM を参照します。

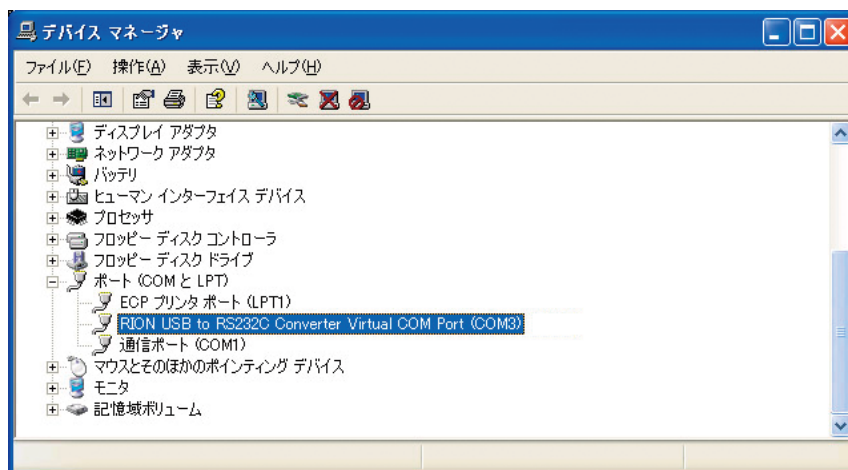
[RION USB to RS232C Conbert Virtual COM PORT] が表示されます。

参考ページ：<https://svmeas.rion.co.jp/download/software>

(英文のページもありますので、分かりやすいほうをご利用ください)

各装置装置用のドライバーをインストールします。NL-42 用と VM-55 用

(リオンのホームページでは VM-55 用は NL-42 も可能と書かれています、2つのドライバーをインストールする必要はありません。)



※アイコンに X がついていないか確認します。X がある場合は、再度ドライバーのインストールをしてください。

注意；2 台の測定器を利用する場合（振動計 1、騒音計 1）はポート 2 個追加されます。ここで、表示されるポート番号を IP_STAGE のプロパティに設定します。



この例では 15 と 16 です

(利用環境によって表示されるポートは違います)

ポート番号はそれぞれの環境で違います。また、USB 機器を追加、変更した場合も変わりますので、その場合は再度設定してください。(Windows の特性上固定できません。)


※振動計、騒音計の出力は USB の設定をしておいてください。これが設定されていないと、ポートにドライバの表示ができません。

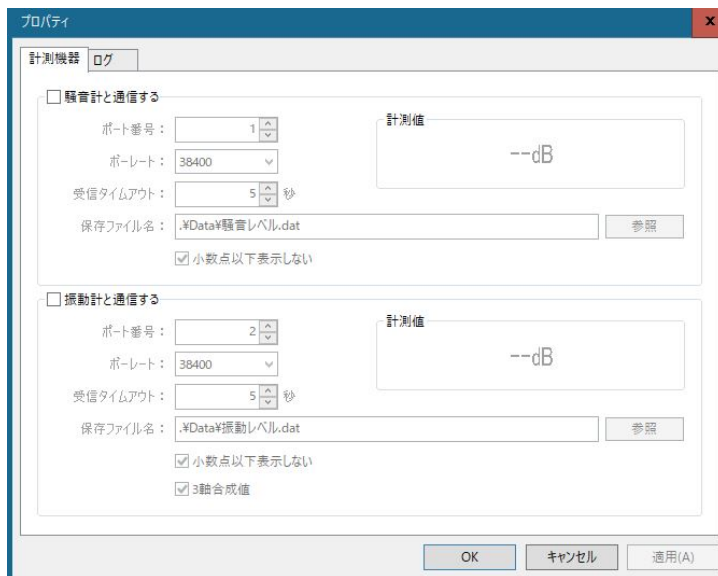
※デバイスマネージャーを表示するにはコントロールパネルから表示します。Windows ロゴを押して、C、P キーをクリックするとコントロールパネルが表示できます。

5. サイネージにデータ取込みソフトをインストール

データ取込み用ソフトウェア [IPstage] をサイネージにインストールします。

IPstage は IPstage を起動中はバックグラウンドで作動して、測定器からデータをリアルタイムで取り込みます。(表示情報は 1 秒毎のデータが自動で更新表示されます。)

IPstage の初期設定は Windows 右下のタスクトレイの IPstage アイコン  から設定します。



Windowsのコントロールパネル>デバイスマネージャー>ポート



COMポート15
COMポート16

設定は

1. 利用する機器の□にチェックを入れます。
振動計と騒音計はポート番号で違いますので間違えないようにします。
 2. ボーレートを選択します。ポート番号を設定します。
ポート番号はコントロールパネルのデバイスマネージャーで表示されているポート番号を入力します。
 3. 保存ファイル名を設定します。(振動レベル.dat、騒音レベル.dat)
わかりやすい ; C ドライブ等に入れてください
C:¥DATA¥振動レベル.dat と C:¥DATA¥騒音レベル.dat
- ※) ボーレートは測定器側のボーレートと一致させてください。
(測定器の設定は測定器の取説、マニュアルなどをご参照下さい)

○測定データについて

1. 測定データは振動計からは 振動レベル.dat
2. 測定データは騒音計からは 騒音レベル.dat に格納されます。

(参照ボタンでチェックしてください。C:¥DATA)

Log はテキスト情報として格納されます。(将来拡張機能用)

※) 常時サインージで表示させる場合、IPstage.exe を Windows のスタートアップに登録します。

6. サインージのフォルダー

IP_STUDIO の配信コンテンツ (データ) は下記に入ります。

C:¥IP_DATA4_TERM

このフォルダーの中に

IPFILE.INI を入れます。

(IP_STUDIO 3 の場合は IP_DATA3_TERM)

C:¥DATA

このフォルダーに計測データが入ります。

振動レベル.dat

騒音レベル.dat

ここに測定器からのデータが入ります。IP_STUDIO もこのデータを参照して表示します。

IP_STAGE のデータフォルダーは下記になります。

C : ¥IP_STAGE

Data

Log

IPstage.exe

IPstage.ini

※計測器からの取り込みデータの保存場所は IP_STAGE のプロパティで指定します。

保存ファイル名 → ¥DATA¥騒音レベル.dat (騒音計)

保存ファイル名 → ¥DATA¥振動レベル.dat (振動計)

※最新 IP_STUDIO 4 のデザイナーで設定時に行指定は必要ありません。

※背景画像は予め用意してください。

※IP_STAGE のショートカットも Windows スタートに入れてください。